

れて居る西班牙は富や人口が個々の部落に散在して居るモロツコよりも飛行武機に對して非常に危険である。

又經濟上政治上の状態が比較的幼稚である國民は、政治機關や文明の程度が複雑な國民よりも戦争で飛行武機を使用するに有利な位置にある、若し北米合衆國とメキシコの開戦を假定するならば、此原則を明かに例證する事が出来る、合衆國の經濟状態は非常に複雑で夫れが爲め此自治の共和國には國家として重要な統一が缺けて居る、夫れ故一度自治の各元腦が破壊されると、薄弱な中央主權は忽破れて共和政體は四離五裂して、兵備の統一は不可能になり、終に國內の不一致の結果他國に對して戦争が出来なくなる、然るにメキシコは經濟上の要求が極めて簡單で人民の生命財産が各獨立して保持されて居るから、其首都が破壊されても夫れが國民一般に及ぼす結果は比較的少量である。

又政府組織の完備して居る立派な國家が領内の革命黨員等に對して戦争をする場合に勝利を得る事は困難である、即斯様な場合に戦争に對する責任を負ふ者は政府であるから、其人民の内に不平の聲が起れば政府は安然に戦争を繼續する事が出来ない。

此原則は獨逸に對するポーランドの革命戦争を想像すれば明かに例證される、革命軍が飛行武機で襲撃すれば獨逸帝國の政治經濟軍事の中心點は其襲撃から免れる事は出来ない、吾々が前に述べた様に飛行機の運動は自由自在で、且つ地上の凡ての物が夫れに對して破壊の目的物となる、だから夫れに對して何とか防禦をしなければならぬ、で獨逸帝國が如何



像肖眞寫るれ作てに送電 (下陸后太皇國英)

最近の寫眞電送機

山水畫なり、肖像畫なり、模型なり、其他總ての寫眞を電氣の力によつて他の地點に送寫することの可能なることは既に數年前に發明されてゐるが、爾來、大に改良されて目下の寫眞術は非常の進歩を來してゐる。以下、此の技術の精進家と稱せらるゝバーカー氏の説明を少し紹介しよう。

之までの寫眞電送機は非常に複雑なもので、容積も大きく從て取扱に不便なばかりでなく、發送費も高價を要してゐた。然るに、その後の改良に由つて携帯に便利な機械が案出されて、一般的使用に適するようになつたのであるが、此の『携帯用寫眞電送機』といふのは二十封度位の重さの小さな木製の箱で、何處にでも提げて歩かれるように革製の把手が附いてゐる。普通のミシン機械よりも餘程小さなものと思へば間違はない。

箱の内には精巧な電氣發動機がある、又小さな蓄電氣が二つ備付けてゐる、發動機には小さな眞鍮製のシリンドラーがあつて、之に送寫せんとする寫眞は縦五吋、横四吋大にして取り着けるようになつてゐる。そして、箱から二個の銅線が出てゐて、若し寫眞を送寫する場合は此の電線を電話機に取り付けければ善いのである。

に多數の飛行武機を所有して居つても是を以て敵を攻撃するの隙が無い、のみならず獨逸はポーランドの都市を破壊する事が出来ない、と云ふのはポーランドの都市、富力、人口は即獨逸帝國の都市、富力、人口の一部であるからである、又獨逸の飛行機隊が革命黨の飛行機隊を破壊すると云ふ事は殆んど不可能である、如何とならば飛行機は空中に何等の足跡を止める事なく自由自在に飛行するから、革命黨の飛行機隊は至る所で獨逸の兵力の策源地を破壊してポーランドの森深く後を晦ましたならば、獨逸の飛行機隊は如何ともする事が出来ない、若し是を一々搜索して破壊し様とすれば長い時日を要する、時間に關はらず撲滅に着手すれば其間に革命軍は前と同一手段で獨逸帝國を苦めるから結局獨逸帝國は終に革命軍に勝つ事が出来ない事になる。

結局吾々は事實として左の事を認めなければならぬ。

第一、戦争の破壊機關として完全に空中飛行機を使用する事は、國際間の戦争に關する協約を規定する世界各國が守るべき國際間の制限と兩立しない。

第二、武器として完全に飛行機を使用する事は富、人口、體格の優る者が強大であると云ふ法則と兩立しない。

第三、武器として完全に飛行機を使用する事は政治組織の完全せる國家と兩立しない。

第四、世界の國家は戦争の破壊機關として飛行機を使用する事を試みに許すと同時に、是に對する防禦力を考案する、而して飛行機が漸次試験的から完全の機械に進むに連れて是に對する防禦力も絶對の力を具備する様に發達する。

寫眞電送機を始めて應用したのは千九百七年十一月のこと、コーン博士が巴里から倫敦まで試験したのであるが、當時の機械は容積大きく、重さも二百封度あり、機械複雑にして熟練なる技師を要し、實際の應用は大に狭められてゐた。そこで、實用上の上から寫眞師が何處にもそれを携帯して行つて、恰も新聞通信員が容易にその通信を電送することの出来るように改良する必要があつたのである。

倫敦にも一個所の受信局がある。受信局は The Daily Mirror に於てであるが、先頃アライトンのメトロポリス、ホテルから英國皇后陛下の御眞影を倫敦に電送した。膝龐ではあるが、一見して陛下の御眞影たる事が分つた。斯くして今や實用に供せられ得ることが證據立てられてゐるのである。

此の寫眞電送術の發見は既に犯罪搜索の上に尠なからざる利便を與へてゐる。惜しいことには未だ受信局は世界に僅か數箇所存在するに過ぎないからその用途は極めて狭き範圍内のことではあるが、兎に角犯罪者の寫眞を直に各地方に發送することが出来るのと同一の效力がある次第であるから、犯罪搜索の一進歩を來すものと云はなければならぬ。

然し、まだ、改良の餘地は澤山ある。第一に發送すべき寫眞を機械に備付るには暗室を利用しなければならぬばかりでなく、其上仲々面倒な手續を要する。



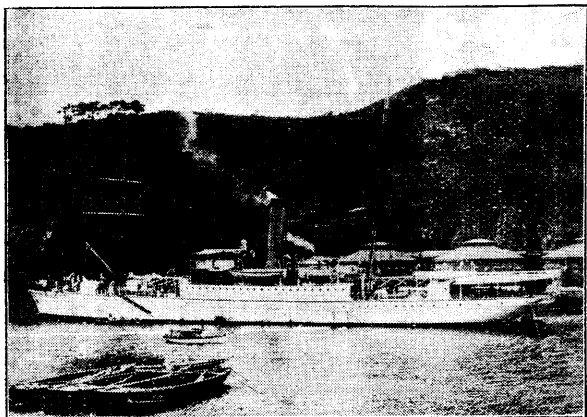
眞寫景風上同

機構その物も一層軽く、且つ經濟的に製作する餘地がある。殊に必要なのは無線電信を利用してその目的を達し得ることの研究である。

若し無線電信に由つて寫眞の電送が可能となつた暁には、軍事上に及ぼす影響は大なるものと思ふ。今や戦時に無線電信を利用せざないことはいささか、左すれば、此際寫眞の電送が可能なりとすれば、敵軍の地盤、その地形、此等の縮圖が直に一見して鑑別することが出来るようにならうから、至大の便利と云はなければならぬ。之は一例に過ぎないが、あらゆる方面に必ず幾多の便利を齎らすに違ひない。そして、此點に就ても今や着々その應用の可能なことが證明されてゐる。

臺灣直通海底電線

内地より臺灣への海底電線は從來沖繩八重山經由の一線のみにして時々不便の事あり本土との通信と大なる不便ありしが臺灣總督府は昨年の議會に經費八十萬圓を提出協賛を經直ちに海底電線は英國へ注文し七月と八月下旬前後二回を以て長崎に着港内西泊ケーブル、タソクに陸揚をなしたる後遞信省直轄特種船沖繩丸横濱より長崎に廻航せら



臺灣直通海底電線敷設船沖繩丸



工部局長 浦田 俊次 氏



沖繩丸船長 野中 稔次 氏

て第二回目の沈設先端と連續せしめ茲に六百五十五哩即ち本邦空前の長距離海底線を完成せしめたり工事長は遞信省技師浦田周次郎氏技手職工三十餘人を率ひ乗船し工事の順序は單にケーブルの沈設に就ては沖繩丸船長野中稔次郎氏これが主任とし沈設後の電機試験其他技術に關する事は浦田技師主管せりと云ふ斯くして十一月一日よりは公衆のため一般通信は開始せられ本土臺灣間の通信に一生面を開けり

れ積荷を終へて先づ臺灣の陸揚地點たる淡水港内より沈設に着手し初め第一回は九月十三日午後四時より十五日正午迄に貳百五十三哩を第二回は十月六日正午より八日午前七時迄に貳百八十七哩を無事に沈設終了し第三回目は長崎の陸揚地點同灣附近茂木港より三十哩を先づ沈設し而し

傳説の系統及分類

柳田 國男

地方の物語は各自我地方の傳説に付ては深き趣味を感じて居るけれども、其傳説が如何なる程度にまで日本國內に分布してあるかを知らぬ者が多い。偶々遠隔の地方に同種の傳説が存して居ることを聞けば、直に之に對して根原の先後を争はうとするのが普通である。私が見る所では、國の端々に互つて各の山各の川には必ず夫々の傳説が附隨して居るけれども、其形式には共通の點が多く、數百千の昔物語は之を分類して見れば僅々十五種か二十種に纏まつて居ると思ふ。而も同種類の傳説と云へば甲乙の間に常に大なる差異が無いのみならず各種の傳説の間にも必ず顯著なる脈絡系統がある。此事實は即ち奥州の外ヶ濱も筑紫の果も甚だ近い血族であること。並に中世の交通が意外に親密であつたことを證するものである。此頃物の序に諸國の古傳説を少しく集めて見て、偶然にもこの愉快なる現象を發見したのである。誰か用の無い氣分の静かな人があるならば、共にゆる／＼と此の忘却せられたる問題を研究したいと思ふが、茲には先づ傳説の目録を掲げて見やう。名稱は便宜の爲假に私が附けたものである。

一 長者傳説 諸國にはよく長者の屋敷跡と云ふ場所があつて、夢よりも美しい榮華物語を傳へて居る。多くの傳説は長者を中心にして枝葉を出して居るやうに見える。長者はない語で族長のことである。勞働を家で統一した古代では、一族の多い長者は必ず富豪である。村には大抵一人の長者が有つた筈であるから、長者傳説の或ものは正眞の歴史かも知れぬ。併し其長者の生活と云ふものには必ず多少の傳説的記述がある。即ち極端に幸福であり又は極端に奢侈である。つまり平凡生活に於ける理想の極致を表現したものである。或は十町四方の屋敷を構へて住み、或は珠の如き娘を持つて居る。山城稻荷の秦氏は餅を的にして弓を射て神に惡まれた。昔の人としては驚くべき奢侈であらう。九州では菊池の米原長者の傳説が最も美しい。東北に行くと長者が金賣吉次に變形して居る。何でも長者には多量の黄金が伴

